

聖書日課 『からし種』 2023.7.9-7.16

<p>7月9日 (日) I 歴代 12章</p>	<p>「このすべての戦陣に臨める戦士たちが、全き心をもってヘbronに集まり、ダビデを全イスラエルの王とした。イスラエルの他の人々も皆、ダビデを王位につけることに同意した」(39節)。「教会は人によって成ったものではなく、神によって成ったもの」。神の共同体は、全き心をもって人々が集い合い、ただ神のみ旨に聞き従って歩むことを求められている。</p>
<p>10日 (月) I 歴代 13章</p>	<p>「その日、ダビデは神を恐れ、『どうして神の箱をわたしのもとに迎えることができようか』といて、ダビデの町、自分のもとに箱を移さなかった」(12~13節)。主がウザを打たれたことにダビデも怒った。しかし、ダビデは主を恐れた。自分たちの行いが「主の御旨である」かどうか？ 私たちは、日々の営みの判断を、「主の御旨」を求め、委ねようとしているだろうか。</p>
<p>11日 (火) I 歴代 14章</p>	<p>「ダビデは神に託宣を求めた。『ペリシテ人に向かって攻め上げるべきでしょうか。彼らをこの手にお渡しくださるでしょうか』」(10節)。ダビデの勝利は、決して彼の手によるものではない。エッサイの末息子にすぎない自分を選び出し、油注いでくださった主のみ業であることを忘れなかった。主に呼ばれ、その群れに加えていただいた恵みを忘れずにいたい。</p>
<p>12日 (水) I 歴代 15章</p>	<p>「主の言葉に従ってモーセが命じたように、レビ人たちが竿を肩に当てて神の箱を担いだ」(15節)。ダビデは、神の箱を車に載せて運ぶ失敗を悔い、祭司とレビ人たちを集めて、主がモーセに命じたやり方で、ようやく神の箱は運び上げられた。自分の解釈、自分が善かれと思うことではなく、主が求め、主が示されることを聞き分け、聞き従うことの難しさを思う。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.7.9-7.16

<p>13日 (木)</p> <p>I 歴代 16章</p>	<p>「聖なる御名を誇りとせよ。主を求め人よ、心に喜びを抱き主を、主の御力を尋ね求め／常に御顔を求めよ」(10, 11節)。キリスト者とは、常に主の御名を呼び求める者たち。主が与えてくださった福音をいただいて、喜びながら日々を歩む者。「誇る者は主を誇れ」との言葉をいただいて、その恵みを感謝し、主のあとに従おうと求める者たちの群れ。</p>
<p>14日 (金)</p> <p>I 歴代 17章</p>	<p>「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしはあなたに先立つ者から取り去ったように、彼から慈しみを取り去りはしない」(13節)。この主の言葉が、ダビデにつながる人々から、イエス・キリストを通してわたしたちに福音として与えられた。イエス様が「アッバ、おとうちゃん！」と幼子のように神を信頼されたように、神に心から信頼して祈ろう。</p>
<p>15日 (土)</p> <p>I 歴代 18章</p>	<p>「ダビデは王として全イスラエルを支配し、その民すべてのために裁きと恵みの業を行った」(14節)。主が約束してくださった通り、ダビデは周辺の国々を討ち、隷属させた。さらに民すべてに対して「公平と正義を行った(岩波訳)」。人々のために「まつりごと」を行う者にとって、「公平と正義」は必要不可欠なものだろうが、それを行うことはなんと難しいことか。</p>
<p>16日 (日)</p> <p>I 歴代 19章</p>	<p>「我らの民のため、我らの神の町々のため、雄々しく戦おう。主が良いと思われることを行ってくださるように」(13節)。ダビデの好意が踏みにじられる形でアンモンとアラムの連合軍と戦わざるを得なくなった時、ヨアブは「主の御旨」がなることを祈って戦場に赴いた。私たちが「主が良いと思われることなるよう」祈りつつ、礼拝をもって新しい週を始めていこう。</p>